

# 野口レポート

NO. 335

令和6年8月1日

発行: 有限会社アルファ野口 〒211-0012

川崎市中原区中丸子 538 ムルベ・ユマルタ 1F

TEL 044-422-1337 FAX 044-455-0208

文責: 野口 賢次

## 60代の10年間は黄金の時間

昔は還暦になると、赤いちゃんちゃんこと頭巾をかぶり、お年寄りになったことを祝ったものです。誰が見ても当時の60才は立派な「おじいちゃん・おばあちゃん」でした。

私は昭和21年の生まれです。「光陰矢の如し」とはよくいいますが、アッという間の78年でした。

振り返ってみると、60才から70才までの10年間は「黄金の時間」でした。いま思えば第2の青春の入り口のようなものでした。大人の雰囲気が出てくる歳にもなり、まだ体力気力も十分ありました。若い頃に考えていた60才とはずいぶんと違いました。

60代、この10年間の「黄金の時間」に色々なことができました。いくつかをあげてみましょう。

### ① 6時間ぶっ続け「だし昆布」セミナー。

相続の法律や税務を語れる人は多くいますが、心の部分を語れる人はいません。「だし昆布」は自分の持っている全てを相手のために出し尽くします。相続に関して私が持っている「知識・経験・ノウハウ・心」を全て出し尽くします。名付けて、6時間ぶっ続け「だし昆布」セミナーです。立ちっぱなし、話しっぱなしで6時間です。

100人を超える会場もありました。心の相続をテーマに依頼を受け、九州から北海道まで全国に講演に行ったのも60代でした。

② 著名な税理士先生のラジオ番組にゲストとして呼ばれ、「心の相続」をテーマに4回ほど対談させていただきました。

③ 毎月発行している「野口レポート」を編集し、「心をつなぐ相続」として初めて出版することができました。ライターは使いませんでした。街の本屋さん並んでいる自分の本をみて感激しました。

④ 旅行等も積極的に参加しました。足腰も衰えを感じることなく、親しい友人家族らと一緒にいった旅行は楽しい思い出です。

⑤ 4人姉妹が揉めていた長崎の五島列島や、別件で与論島にも行きました。精神的にも成長し、体力・気力もみなぎっていました。

それから数年がたち後期高齢者と呼ばれる歳になりました。以前のように足が上がらない、駅へ行くにも若い女の子に抜かれる、座って立つのが難儀になってきた、お酒の量も少なくなった。

最近になって体力の衰えをはっきり感じるようになりました。現実を素直に受け入れることは大切です。年は、どんなに大金持ちでも、いくら貧しくても平等です。同じように重ね老後をむかえます。私もあと2年で80才の大台にのります。その時の体力はどうか、衰えを補うのは気力しかありません。私を必要としている人はまだいます。これからも現役を続けていくなかで、いかに気力を保つことができるかが勝負です。

60代はまさに第2の青春です。還暦をむかえた人、これからむかえる人も、老いている暇などありません。この素晴らしい時間を無駄にしないで、充実して過ごされることを願っています。